

平成30年度 学校評価書

学校名： 静岡市立高等学校

I 経営の重点に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から	
1	学校教育目標	「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。	自己評価	学校関係者評価委員会から	
2	重点目標 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。	(1)授業、部活動、家庭学習時間の確保	①授業研究に関する研修日を年間3回以上設定し、各回の事後アンケートで「学びがあった」との回答を80%以上得る。【研修課】 【学校説明】7/12(木)第1回授業研究会、9/12(水)溝上教授訪問、10/1(月)授業力向上研修、10/18(木)指導主事訪問、11/9(金)第2回授業研究会を実施した。すべての教科の振り返りシートに、研修を通しての気づきが記載されていた。	A	A 生徒の前向きな姿が見られる。「勉強の面白さ」がわかることで生徒は主体的になる。それを可能にする授業方法に期待する。生徒に本物の力をつける授業を常に心がけたい。
		②各生徒が目標に向かって自己有用感を高め、部活動を通して人間形成を図る。各部活動が魅力ある部になるよう計画・実行する。【生徒課】 【学校説明】各部活動が積極的に取り組み、日常の放課後の部活動や長期休業中の合宿、試合やコンクール等自己有用感を高める貴重な時間となっている。	A	A よい成績は、指導・練習方法に対する指導者への信頼を生徒に与える。生徒の健康管理を含めて、効果的な練習方法を教職員で共有してほしい。	
		③6月、10月に実施する帰宅時間調査において、平日の帰宅時間が「午後8時前」と回答する生徒の割合を前年同時期より増加させる。【教務課】 【学校説明】今年度の調査では「午後8時前」に帰宅した生徒の割合は64%(2回の調査の平均値)であり、前年に比べ1%の増加に留まった。	B	B 部活動終了時間、補習、自習(塾)など、原因を明らかに。一律に設定することに問題はなかったか。スケジュールの管理を養うことも方法のひとつ。	
		④6月実施の進路アンケートにおいて、各学年ともに家庭学習が前年度に比べ増加する。【進路課】 【学校説明】各学年ともに前年度に比べて、家庭学習時間が増加した。(1年生:36分増加,2年生:35分増加,3年生:38分増加)	B	A 平均で30分増加したことは評価できる。家庭学習の「時間」も大事ではあるが、「学習方法・やり方」も重要。	
		(2)地域や保護者に関わった学校づくりの推進	①PTA校内研修会の出席率を10%程度増加させる。また、ナイトウォーク巡視協力の保護者数を100名以上確保する。【総務課】 【学校説明】PTA校内研修会の出席者は42名(昨年度35名)で、出席率は20%増加した。ナイトウォークは中止となったが、巡視協力の保護者数は113名で目標を達成することができた。	A	A 保護者からの信頼と期待が、行事への支援を通して学校運営に寄せられている。研修会は教室ではなく、ホールで実施するくらいの参加者数にしたい。
		②学校案内等を適切なタイミングで発行する。また、Webページの1日あたりのアクセス数を年間平均1,700以上となるよう内容の充実につとめる(一昨年の2倍以上、昨年の最高アクセス月の数よりも多い)。【情報課】 【学校説明】来年度版学校案内を、9月1日の学校公開日から配布することができた。その内容は、部活動の全国総体出場など最新の記事を載せることができた。Webページ(ホームページ:HP)への1日あたりのアクセス数目標については、昨年度のアクセス数の伸びを参考に1,700(回/日)としたが、12月までの時点で1,326(回/日)にとどまっている。特に、7月から10月の期間におけるアクセス数が伸びておらず、県総体の結果や夏休み中の活動、新人戦をはじめとする秋の大会の結果の公開が少なかったことに原因があると考えられる。12月は7ヶ月ぶりに昨年を上回るアクセス数を記録できた。これは修学旅行の記事をリアルタイムに公開したことにより、保護者が繰り返しアクセスしたためだと考えられる。以上のことから、本校の活動内容を広く知ってもらうためには、積極的な情報発信をリアルタイムに行うことが大切であることを改めて強く認識した。	B	B HPにも情報を積極的に公開する姿勢が感じられる。広報においても、生徒会や委員会等の生徒自身の主体的な活動報告を取り入れるというのではないかと(職員の負担軽減もふまえて)。	
		(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。	①始業終業等記録簿等において、時間外勤務時間を昨年より削減し、土曜授業振替取得率を85%以上とする。【管理職】 【学校説明】時間外勤務時間は個人差がある。3ヶ月連続で時間外勤務時間の多い教員について、同時期(12月)で昨年度と比較すると増加も減少もなく横ばいである。土曜授業上半期の振替取得率は85.16%である。	B	B 徹底的に職員の勤務時間、勤務時間外、帰宅時間、仕事の持ち帰り分等の把握に時間をかけてもいいのではないかと。実態把握が共通理解の第一歩となる。

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から	
1	教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成【市共通項目1】	①各クラスにて年間2回以上の面談が実施されるよう、職員会議等で職員に周知する。【進路課】 【学校説明】年度初めのクラス面談、夏季休業中の三者面談、1年部における文理選択に関する面談、2年部における年明けの第一志望届に関する面談、また3年部においては出願に関する三者面談など、1年間を通じて昼休みや放課後の時間を使って各クラスとも複数回面談を実施し、きめ細かい指導を行っている。	A	A 進学実績がこの項目の取り組みを表している。生徒や保護者との面談は年々難しくなってきたので、ノウハウの共有を。
		②学習習慣の定着や学力向上に関する学年の取り組み ・平日2h、休日4h以上の学習サイクル(スタレコ集計及び面談)【1年部】 ・スタディレコードの継続実施及び集計結果の提示。 ・家庭学習時間平日2.5時間、休日4時間以上の実施。【2年部】 ・担任だけでなく副担任による面談も含めて、適切な時期に面談を年に4回以上行い、進路や学習のアドバイスを行う。【3年部】 【学校説明】【1年部】日々の学習の記録を記入し、集計を行った。4月~12月(1日の学習時間の月平均150分)。学習時間に関しては、概ね満足できるものであった。今後は量と質のバランスを考慮し、月合計が80時間以上を基準にしていきたい。 【学校説明】【2年部】正副担任で、スタレコのチェックや、それに基づく指導や面談を継続的に実施することができた。まだまだ目標には及ばないが、昨年度よりは机に向かう様子が見られた。 【学校説明】【3年部】学年の集団としては、進路に対する意識の高まりが若干遅くなった部分はあったが、担任・副担任による面談や教科担当の先生方などの適切な声かけにより、向上させることができた。3年生はいろいろな面で不安や焦りが出てくる時期でもあり、改めて一人ひとりの話をじっくり聞くことの大切さを感じた。	A	A 家庭学習の平均時間が増加したのは、各学年の取り組みによるのではないと思う。家庭学習の内容についても、個別の指導がなされている様子がうかがえる。難度が高くなると、追いつけない生徒も出てくる。「不得意=諦め」にならないように生徒の個別チェックとフォローが大切かと思う。不得意を克服することで学習習慣の定着が期待できる。	
		③「授業評価アンケート」において、シラバスに示された各教科の到達目標を十分達成できたと回答する生徒の割合を50%以上とする。【教務課】 【学校説明】「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒の割合は、すべての科目において50%を上回った。	B	B 授業評価アンケートの到達目標の設定方法について再確認を。50%以上とするためには、教師の授業構想が大切であろう。	
		(2)道徳教育の充実【市共通項目2】	①福祉委員会や各部活動を中心に、ボランティア活動等に積極的な参加を促す。【生徒課】 【学校説明】生徒会や福祉委員会によるボランティア活動が行えた。一部の部活動では、清掃活動などが行われた。	A	A ボランティア活動の本質を理解することで、社会人になっても気配りと心配りができるようになる。学力とともに重要な項目である。
		(3)特別活動の充実【市共通項目3】	①部活動や学校行事等において、生徒が自ら考え行動でき、仲間と協力しながら達成感を味わえるよう導く。各生徒が目標に向かって自己有用感を高める活動ができている。【生徒課】 【学校説明】部活動や学校行事において、より主体的な活動が行われるよう導きたい。	B	A 学校行事において「より主体的な活動」とは何か具体的にすべき。学校生活の充実に関する調査では「友達やクラスが楽しい」が大多数であった。
		2	生徒指導	(1)一人一人を大切にされた指導【市共通項目4】	①各機会においてアンケートを行い、自他を尊重するという点について実施以前に比べ意識が高まったとする生徒70%とする。【教育相談室】 【学校説明】コミュニケーション講座、保健講座実施後のアンケートにおいては、意識が高まったとする生徒が目標を達しているものの、人権尊重の啓発の機会を増やしていく必要があると感じている。
②相手よりも率先して元気の挨拶ができるようになる。制服を正しく着こなしている。節度のある言葉遣いができるようになる。【生徒課】 【学校説明】多くの生徒が、正しく制服を着こなしている。率先した挨拶ができることや節度ある言葉遣いができるようになるために、継続した指導が必要である。	B			B 服装や雰囲気において高校生らしい生徒が多いように感じられる。「正しい・当たり前」の大切さは理解できても、一方で多感な高校時代は感情が前に行きがち。	
(1)進路指導の充実	①10月実施予定の2年学部学科説明会では、国公立大学10大学以上に出張授業のオファーを出し実施する。【進路課】 【学校説明】4月初旬から大学に依頼をして、10月25日に実施した学部学科説明会では国公立大学11大学に出張授業を実施していただいた。国公立大学の魅力と充実した学びの様子を発信することができた。			A	A 出張授業を多く実施した成果として、進路未定者が減少していくことは成果である。多くの情報が得られれば、その中から自分にあったものが選択できる。

3 進路指導	(1)進路指導の充実	②年間4回の進路検討会を企画・実施し、3学年部以外の教員にも積極的に参加してもらえよう、声掛けをおこなう。また、予備校・各社主催の研究会に、3年部職員は年間1回以上参加し、担任会などで内容の報告をする。【進路課】	A	A	生徒や保護者に対して、進学情報の提供や支援をきめ細かくしていることを感じる。各学年の独自性もあると思うが、前年の反省事項の改善や引き継ぎはどうか。校内実力テストの結果が進路情報として活用できているか。
4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築【市共通項目5】	①自転車のルールを守り、交通マナーを意識した運転ができる。【生徒課】	B	B	生徒一人一人が言葉を掛け合うような意識を持ちたい。余裕を持って登校するように促したい。
		②生徒の安心・安全を最優先に考え、施設・設備等の定期点検及び不具合箇所の早期対応を図り、生徒がより快適な学校生活を送れる環境整備を図る。【事務室】	A	A	施設設備が充実すればするほど維持管理費も増加する。予算確保をお願いしたい。防犯カメラの設置は大変な決断だったと思うが、結果としてはよかった。ブロック塀の撤去もよかった。
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実【市共通項目6】	①健康調査票や観察記録、教育相談、生徒課等からの情報を、扱いに注意しつつ共有し、生徒への支援に活用する。【保健環境課】	A	A	職員に健康観察を意識づけることは大切である。教育相談の増加は、相談しやすくなったためか事案そのものが増加しているのか、分析が必要。情報共有の上での取り組みが課題解決につながる。
		【学校説明】多くの事案が起きた年度であったが、それぞれの情報を共有し必要に応じて会議や打ち合わせに活用できた。生徒の出欠の状況や心身の変化についても継続的に把握でき、情報共有を適切に行うことができた。			
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進【市共通項目7】	①情報連絡会や事例検討会を必要に応じて迅速に実施する。また、内容を記録して関係者に回覧し共有する。【保健環境課】	A	A	教職員間での情報共有ができていようである。進路先にはどのような対応をしているのか再確認を。
		【学校説明】スクールカウンセラーの助言を活かしつつ、教育相談や保健室からの情報を活用し個々の生徒の指導・支援の深化が図れた。また、困難を抱えた生徒についての対応は迅速に実施され、情報連絡や事例検討も組織的に指導支援することができた。教育支援の記録や現状は、関係者に回覧し共有できた。			
7 組織運営	(1)組織・運営の改善【市共通項目8】	①学校の組織と運営方法に対して、常に効果と課題を検証するとともに改善を図る。【管理職】	B	B	長期課題については、ステップアップの明確な目標設定が必要。学校外の出来事を見逃さず、情報共有して後回しにしないことも重要である。
		【学校説明】中・長期的な課題と短期・突発的課題について、常に検証を行い、改善に努めている。全職員が、変化や課題を敏感に捉えられるようアンテナを張り、速やかな連絡・報告・相談体制がとれることが改善に向かう第一であると考える。			
8 研修	(1)研修体制の充実【市共通項目9】	①職員会議等において高大接続改革の最新の情報提供を年2回以上行う。【進路課】	B	A	高大接続改革により、落ち着いた学習環境が失われないか心配（特に英語試験外部実施の影響）。教育委員会や他の高校と連携をとって、混乱がないようにしたい。
		②次期学習指導要領に関する情報提供を全職員に対して年1回以上実施する。【教務課】	B	B	担当や教科主任、管理職が重要な点を押さえておきたい。新学習指導要領を含め、新しい情報を得る努力を継続してほしい。
		③新着情報、図書館ニュースによる情報発信を行ない、図書館利用を呼びかける。【図書課】	B	B	高校時代の本との出会いは、貴重な経験。理系においても、生命倫理やエネルギー問題、環境問題（持続可能な開発）等、社会的責任を考えることが必要。
		【学校説明】先生方に図書館利用を呼びかけ、授業における利用が増えた。生徒への呼びかけは図書委員会の活動を中心として毎月図書館ニュースを発行し新着図書やお薦め本の紹介を行った。			
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進【市共通項目10】	①開かれた学校づくりを推進するため、ホームページや学校案内、パンフレット、チラシ等を活用しながら、中学校訪問や土曜授業（公開）等において、全職員が授業や学校生活、行事、部活動等を積極的にアピールする。【管理職】	A	A	学校要覧や学校案内等の刊行物により、地域の人々への広報を充実させていると感じる。ホームページの充実のため、生徒の進路状況等を積極的に発信してほしい。
		②地域防災訓練への参加者数の10%程度の増加。【総務課】	B	B	400人を超える参加者を維持している。家庭や地域での対応も意識させたい。町内会への参加（祭りや催事等）も促してほしい。
10 施設設備	(1)リサイクルや省エネの推進	①古紙リサイクルの推奨や可燃・不燃ごみの分別の周知徹底を図っていく。省エネについては、普通教室照明の計画的なLED化や安定的な電力供給を前提とした新電力需給契約による経費節減に努めていく。【事務室】	A	A	ごみ減量やリサイクル、省エネルギーに関しては、社会的ニーズや市民感覚とのズレがないように引き続き取り組んでいただきたい。
		【学校説明】「ごみの分別」「リサイクルの推奨」等の呼びかけ、周知を行い、省エネ社会に貢献する意識啓発に努めた。普通教室照明のLED化は、H29年度までに3年生普通教室は完了した。今後、2年生、1年生の教室を順次更新していく予定としている。			
11 科学探究科	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①各科SSH担当者間の連絡を密に取り、プログラム内容の充実を図る。生徒への事後アンケートにおける満足度80%以上。【科学探究科】	A	A	ルーブリックの見直しには時間と蓄積が必要。外部大会での活躍等、生徒が課題を見つけて解決し発信するという、いま一番大切なことがきちんとできている。
		②課題研究校内発表会において研究に関連する評価平均3.0以上。また、科学系コンクールでの受賞2点以上。【科学探究科】	A	A	科学系のコンクールに積極的に参加し、評価もされている事は素晴らしい。今後の生徒の目標や自信等、科学探究科の存在感を示す行動が、新聞報道から感じられた。
		③次年度に開始するプログラムのシラバスを作成し、教員研修の機会を通して趣旨および指導、評価方法を周知する。【科学探究科】	B	B	科学探究科の教育効果についてアンケートから要因を分析することで、普通科プログラムへつなぐことができると思う。科学探究科の手法が普通科にも広がるように期待したい。
		④少人数授業に対する生徒満足度80%以上。プロジェクターを利用する授業を定期的実施する。【科学探究科】	B	A	少人数指導のクラス分けに際しては、個々の生徒との丁寧な話し合い（面談）が大切である。
		【学校説明】10月実施アンケート結果：1年（数73%、英46%）、2年生（数56%、英51%、理56%）。現在、1年英語科ではクラス分けの方法を変えるなど、各教科で工夫を重ねている。2月上旬に再度アンケートを行う予定である。			

学校から 経営のまとめ(成果と課題)	学校関係者評価委員会まとめ
①第2期SSHの指定を受け、これまでに本校が研究開発した科学探究科の取組を更に普通科に広げるため、SS探究事業の研究・開発が始まり、職員も生徒も前向きな姿勢で取り組んでいる。②全職員が年間を通じてアクティブ・ラーニング型授業や授業改善に取り組み、授業力向上に努めている。③下校時間（部活動終了時間）について目線あわせを行い、限られた時間の中で部活動を行なう工夫した。生徒の帰宅時間は前年度と大きな変化はなかったが、全学級でのスタディレコードの活用や部活動顧問との連携により家庭学習時間の伸びは見られた。④PTA役員による熱心な活動と毎日ホームページを更新するなど職員の地道な広報活動により、PTA校内研修会への参加や行事への協力など学校に協力的な保護者が増えたり、ホームページのアクセス件数が伸びるなど、本校への関心の高まりを感じる。今後も継続して「地域や保護者に開かれた学校づくりの推進」を進める。	SSHは挑戦的な素晴らしい取り組みであり、普通科への浸透は生徒一人一人の将来に向けて成長を促す礎になるものと思う。目標実現のため、全職員が一つの方向を向いて取り組んでいる様子が伺える。新しい学習指導要領に沿った授業改善、研鑽を望む。